ADO River Map mini

淵や岩などの名称

安曇川（本流）

- ●0 赤壁
- ●1 わらび野渕
- ●2 フジタニ
- ●3 赤岩（渕）
- ●4 アイワ巻
- ●5 フルヤ巻
- ●6 アクマ渕
- ●7 ド岩
- ●8 ココノセ渕
- ●9 釜ノ渕
- ●10 イタヤ巻
- ●11 ゲンゴ（渕）
- ●12 クロ岩
- ●13 サンダ渕
- ●14 カブラ岩（渕）
- ●15 宮越渕
- ●16 ヤシヤガワ
- ●17 アバラ
- ●18 テング岩
- ●19 アバラ
- ●20 ヌクビ渕（岩）
- ●21 下の生水
- ●22 赤岩の渕
- ●23 下の長渕
- ●24 雨乞いの渕
- ●25 セリ岩
- ●26 御厨渕（コイの渕）
- ●27 ゲンベ巻
- ●28 サルハシの瀬
- ●29 センチ
- ●30 雨宿り岩
- ●31 亀岩
- ●32 天狗岩
- ●33 上の生水
- ●34 高岩
- ●35 上の長渕
- ●36 左巻き
- ●37 桜岩
- ●38 割れ岩（横岩）
- ●39 ウシロハゲ
- ●40 金根の横
- ●41 おなつの渕
- ●42 赤岩
- ●43 弁天渕（ガワタロウ）
- ●44 上河原
- ●45 チョンビン（渕）
- ●46 ジロダイ渕
- ●47 ジンタロ渕
- ●48 鳴岩
- ●49 オオダン渕
- ●50 八幡渕
- ●51 白岩（渕）
- ●52 長渕
- ●53 キリキリ渕
- ●54 鱒渕
- ●55 ウラガワラ
- ●56 マンドロ石
- ●57 釜ノ渕
- ●58 エボシ石
- ●59 脇の渕
- ●60 ダイゴロの渕
- ●61 六畳岩
- ●62 ガワラ渕
- ●63 潜水石
- ●64 三ツ石
- ●65 江州岩
- ●66 シンスケのハゲ
- ●67 壁が渕
- ●68 坊さん岩
- ●69 出合
- ●70 オオカミ岩

針畑川

- ●71 長吉山の渕
- ●72 イタチ渕
- ●73 新五郎滝
- ●74 舟岩
- ●75 巻れ石
- ●76 石棚（滝）
- ●77 大岩渕
- ●78 亀岩
- ●79 ガンキ
- ●80 横渕
- ●81 シコブチ平
- ●82 金山渕
- ●83 堂の渕
- ●84 堂の瀬
- ●85 渡り瀬
- ●86 セバト
- ●87 子ジャボンの渕
- ●88 火バサミ
- ●89 オカイノ
- ●90 梯子の渕
- ●91 コク岩（の渕）
- ●92 柳の曲り（長い瀬）
- ●93 続き原
- ●94 ショウダ渕
- ●95 ハセ場
- ●96 餅田河原
- ●97 長が渕

久多川

- ●98 金掘渕
- ●99 六回り
- ●100 ノノ滝
- ●101 カケヤ渕
- ●102 シモデ渕
- ●103 自性寺の渕
- ●104 小滝
- ●105 出合
- ●106 カワクボの渕

針畑川

- ●107 水落とし
- ●108 戸谷渕
- ●109 一つ筏
- ●110 熊ノ谷口の渕
- ●111 カタカタ渕
- ●112 ナバタケ
- ●113 ドンドノ壁
- ●114 桶屋渕
- ●115 オラダケ渕
- ●116 平岩
- ●117 平良谷渕
- ●118 ドバ
- ●119 ドウレン渕
- ●120 ヘソ渕
- ●121 サブカゼ渕
- ●122 立石
- ●123 立石の渕
- ●124 ゴミ渕（セコの先）
- ●125 豆腐屋の渕
- ●126 じょうせん河原
- ●127 禿尻渕
- ●128 ジンデ
- ●129 出合
- ●130 ゴウ渕
- ●131 ココノツ（九津）
- ●132 出合い

北川

- ●133 ベツカン
- ●134 下市河原（筏の保留地）
- ●135 アマンサカ
- ●136 ゴン渕
- ●137 赤岩
- ●138 回りゴン渕
- ●139 殿さんのハセ場
- ●140 三石の渕
- ●141 蛙岩
- ●142 カンシチャ渕
- ●143 アバラ
- ●144 ヨコタ渕
- ●145 ミコシ岩
- ●146 ミコシ渕
- ●147 イワサカの渕
- ●148 椎ノ木の渕
- ●149 メグチの瀬
- ●150 オオド
- ●151 壁立（岩）の渕
- ●152 コウロウ
- ●153 ニシノクボ
- ●154 柳渕
- ●155 穴渕
- ●156 カリタ渕
- ●157 長池の渕
- ●158 一段田渕
- ●159 タケノコシ
- ●160 舞込み
- ●161 スベリ石
- ●162 ケヤジリ（渕）
- ●163 長持岩
- ●164 シタナンキ
- ●165 ドドフケ渕
- ●166 キドブチ
- ●167 ドバ
- ●168 シャケビロ
- ●169 急木（いそぎ）原
- ●170 ニコンボの渕
- ●171 打良原
- ●172 上谷原
- ●173 チャジリの回り
- ●174 ドバ
- ●175 ガンタロ渕
- ●176 出合い
- ●177 五間渕

麻生川

- ●178 花山尻渕
- ●179 生水ノ渕
- ●180 高橋の渕
- ●181 雷渕
- ●182 勘定渕
- ●183 クロンジョの棚
- ●184 カヤキ（榧木）渕
- ●185 ブチ
- ●186 平岩
- ●187 保ヶ渕
- ●188 知良々刑部切腹岩
- ●189 知良々井の渕
- ●190 牛取渕
- ●191 井ノ口
- ●192 深瀬渕
- ●193 大戸（木場代）
- ●194 筒渕
- ●195 ゼッボウの回り
- ●196 サルトビ岩
- ●197 回り戸

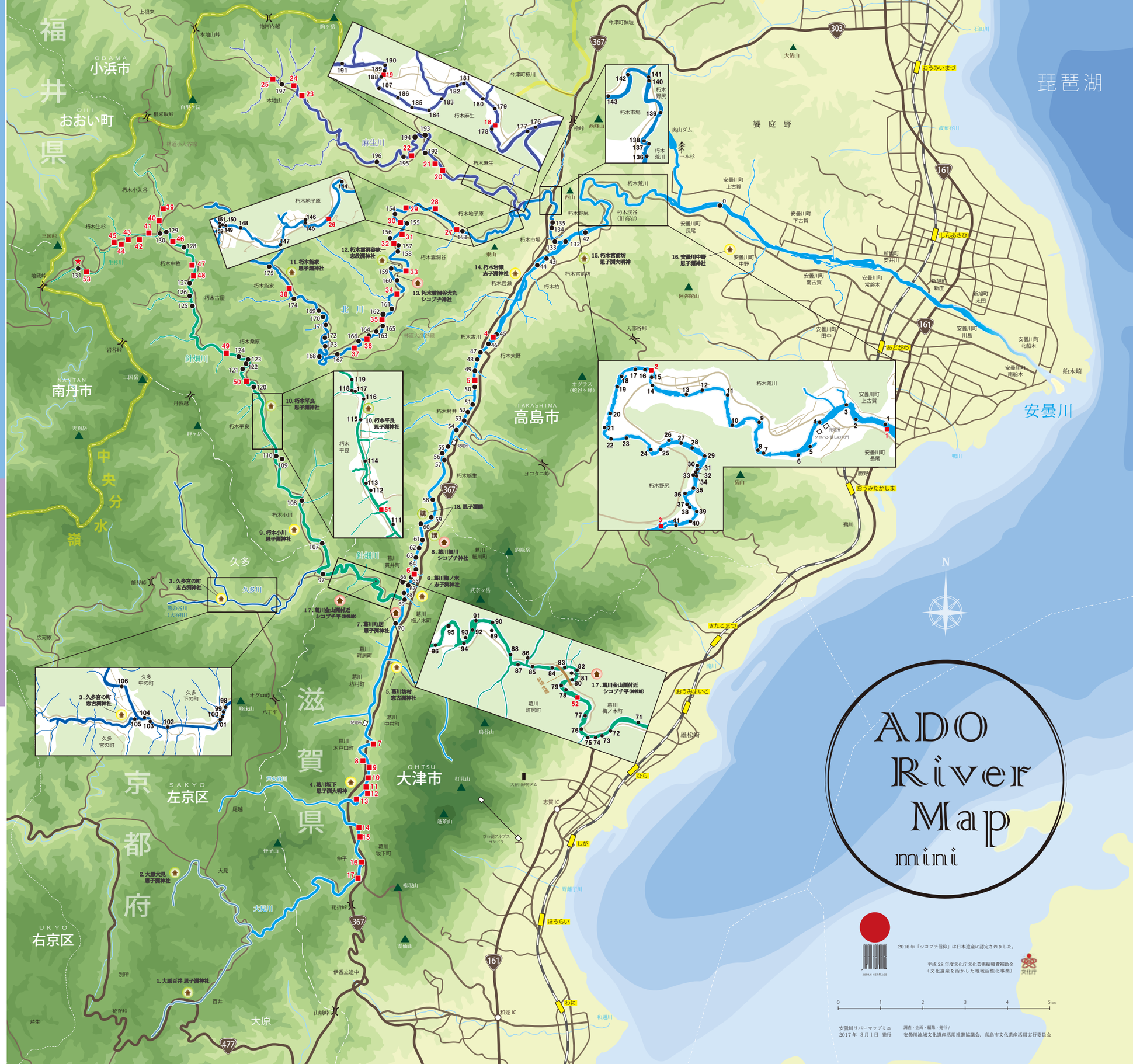
井堰などの名称

設置目的の分類

① 頭首工　：農業用水（田用水）の取水
② 洪水調節ダム：水勢ダム、下部に通水口を設けることが多い（穴開きダム）
③ 砂防ダム　：土石流の移動や河床の低下を防止（水位確保）
④ 発電用ダム　：発電用の取水
⑤ その他　：護岸壁の崩壊防止など

■no.　所在地［全長（通称）］
設置目的①～⑤
魚道機能◎～×

- ■1 長尾（合同井堰）［43m］①◎
- ■2 荒川［33m］⑤△
- ■3 高岩橋［51.5m］④◎
- ■4 古川［180m］①×
- ■5 大野［81m］③①◎
- ■6 貫井［72m］④◎
- ■7 木戸口［30m］③×
- ■8 坂下［21.5m］③×
- ■9 坂下［21.5m］③×
- ■10 坂下［22m］③×
- ■11 坂下［18m］⑤×
- ■12 坂下［18m］⑤×
- ■13 坂下［41m］②×
- ■14 坂下［30m］③×
- ■15 坂下［44m］②×
- ■16 坂下［16m］④◎
- ■17 坂下平［14m］⑤◎
- ■18 麻生［37m］①△
- ■19 麻生（チララ）［38m］①×
- ■20 麻生［21m］①×
- ■21 麻生［31.5m］①×
- ■22 麻生［25.5m］①△
- ■23 木地山［13m］③鮎 × アマゴ△
- ■24 木地山［11.5m］③鮎 × アマゴ△
- ■25 木地山［11.5m］③鮎 × アマゴ△
- ■26 地子原［23.5m（2 段）］③鮎 × アマゴ◎
- ■27 地子原（向所）［18.5m（新井）］①×
- ■28 地子原（立戸）［31.5m（アクセ井）］①×
- ■29 雲洞谷 下立戸［21m（新潟）］①×
- ■30 雲洞谷 下立戸［34m（善法井）］①×
- ■31 家一［23.5m（高岩井）］①△
- ■32 家一［33+10m（長池井）］①×
- ■33 家一［26.5+11m（全昌井）］①×
- ■34 犬丸［25.5m（掛井）］①×
- ■35 上村［19m］①×
- ■36 上村［20m（堂ノ前堰）］①×
- ■37 上村［19+9m（ハタケダ井）］①×
- ■38 能家［11.5m（大井）］①×
- ■39 小入谷［18m］③×
- ■40 小入谷［19m］①③×
- ■41 生杉［15.5m］①③×
- ■42 生杉［9m］③△
- ■43 生杉［9m］①③×
- ■44 生杉［12m］③×
- ■45 生杉［7.5m］①③△
- ■46 中牧［12m］①△
- ■47 中牧［26.5m］①△
- ■48 古屋［21m］①×
- ■49 桑原［25m］①×
- ■50 桑原［26m］①×
- ■51 南平良［16.5m］①△
- ■52 梅ノ木［43m］②×
- ■53 生杉 鉄砲堰跡
- ★琵琶湖・淀川の水源地



2016 年「シコブチ信仰」は日本遺産に認定されました。

平成 28 年度文化庁文化芸術振興費補助金
（文化遺産を活かした地域活性化事業）

安曇川リバーマップミニ
2017 年 3 月 1 日 発行

調査・企画・編集・発行 /
安曇川流域文化遺産活用推進協議会、高島市文化遺産活用実行委員会

ADO River Map mini

JAPAN HERITAGE

井堰や淵や岩など 見どころ紹介

●0　御霊岩（赤壁？）

「しこぶちさんのむかしばなし」に登場する「中野の赤壁」と思われる場所が、安曇川町中野の広瀬橋近くにあります。●0赤壁です。この辺りの川岸の岩は赤っぽい色をしており、まさに「赤壁」です。江戸時代には「赤岩運上所」があった場所とも考えられています。

また、この赤壁の少し上流の長尾には「御霊石」という岩場があります。この岩の上にはかつて御魂神社が鎮座していましたが、現在は安曇川が見える山の斜面に祀られています。

□「ソロバン落し」の水門

荒川の水力発電所が建設される際、取水のための高岩堰堤（ダム）には筏専用の流筏路が設置されました。主流の側から発電用水を導入するトンネルが 1.1km にわたって開さくされ、この中を通った筏は発電所横に設けられた「筏落し」というスロープになった流筏路を流下します。流筏路の入口付近の底部には上下する水門とローラーがついた「ソロバン落し」と称する装置が設けられました。

「ソロバン落し」の水門は筏が接近してくると水門が下がり、ローラー上を筏が通過して流筏路に入るようにする装置で、筏の通過をスムースにする工夫でした。これによって大正 10 年（1921 年）に荒川発電所が稼働し、筏は朽木渓谷の難所を通らなくてもよいこととなりました。

■53　生杉 鉄砲堰跡

朽木生杉（くつきおいすぎ）には針畑川（はりはたがわ）筋の鉄砲堰（てっぽうせき）の跡と思われる石積みが残っています。鉄砲堰は熊の谷川と「県立自然公園・ブナ原生林」を流れる谷川の合流点「九津（ここのつ）」の下手 110m に設置されていました。石積みの上部に材木を組んで堰を造り、満水時に水門を開けて発生した鉄砲水で筏を流下させました。

ここは、琵琶湖・淀川の水源地であり、ブナの原生林には水源地の標柱が建てられています。

○0赤壁（中野）

御魂神社（長尾）

朽木渓谷（荒川）

「ソロバン落し」の水門（荒川）

■53 鉄砲堰跡（生杉）

★水源地標柱（生杉）

ブナの原生林（生杉）

神さまに見守られた木材　―シコブチ神と筏流し―

安曇川沿いには「シコブチ」という名前の付く神社が 15 社、神社跡が２社、そして講が２つあります。「シコブチ」は、思子淵、志子淵など色々な漢字が当てられていますが、本来「シコ」は「恐ろしい・醜い」、「ブチ」は川の屈曲部や淵。つまり、川の流れが安定しない、危ない場所を意味しています。この恐ろしい「シコブチ」が名前に付く神社ですが、実は安曇川の筏流しを見守る神さまがおられ危険を伴う筏流しが無事に山から河口までたどり着くように、その安全な航行を見守って下さっていたといわれています。

これらの神社は安曇川の源流の１つである大原大見から一番下流は安曇川町中野まで、安曇川流域山間部に分布しています。それはまさに筏乗り（筏師）にとって、河川を下るときの難所が多かったところ。そんな地域のあちこちで筏乗りを見守っていたシコブチの神さまは、同時に材木流通の守護神ともいえるでしょう。筏流しは滋賀県内外の多くの河川でも見られましたが、その筏流し・木材流通を守護するとされる神社がこのように多く分布している例は安曇川流域の他にはありません。

また、このシコブチ神社の立地にも面白い特徴がみられます。大川（針畑川や安曇川本流などの大きな川）と谷川の合流点に設けられたドバ（またはコバ）と呼ばれる木材加工の作業場など、筏流しや山仕事に関わる場所の近くに鎮座している場合が多くみられるのです。安曇川を抱く山々で育った木々は、シコブチの神々に見守られながら筏となって川を流れて運ばれる、まさに神さまに見守られた木材であるといえるのです。

「しこぶちさん」のむかしばなし

むかしむかし・・・朽木村のいかだ師「しこぶちさん」が山から切り出した木をいかだに組んで息子と川を下っていると、続く原の日ばさみというところで岩のかどにあたって立ち往生してしまいました。「これは困った・・・。」ふと気づくとそこに乗っていた息子の姿が見当たりません。川に眼をやると一匹のカッパが息子を小脇にかかえて川底にひきいれようとしているではありませんか。「おまえはだれや！」「わしは人の生き血を吸うて生きてるカッパの川太郎や。」「しこぶちさん」は息子を救おうと竿でカッパの川太郎を懲らしめ、大事な頭の皿を割ってしまいます。「これからはもうしまへん。」カッパの川太郎はすごすごと退散します。

いったんはしおらしくあやまったカッパの川太郎でしたが「しこぶちさん」が中野の赤かべというところへ下ってきたとき、ふたたび川底からいかだをおさえて航行を邪魔します。かんかんに怒った「しこぶちさん」はカッパの川太郎を完膚なきまでに打ちのめします。「堪忍してください。これからは菅笠にガマの脚半をはいて辛夷の竿を持っているいかだ師さんには手を出しません。」その誓いのしるしに持っていた杉の枝をさかさに突き出します。「しこぶちさん」は哀れに思って、カッパの川太郎を許してやります。その逆さに立てた杉の木から枝が出て安曇川町・中野の大きな「さかさ杉」になったそうです。「しこぶちさん」は「川のワルモノを退治してくれる強い神さま」として、川治いのお宮さんに祀られるようになったということです。

『読みがたり滋賀のむかし話』（滋賀県小学校教育研究会国語部編・日本標準発行）から要約

昭和期の林業とイカダ（筏）流し

1．材木の伐採から搬出まで

安曇川流域は奈良時代以前から、杣（そま）とよばれた材木の産地として知られ、河川や琵琶湖の水運を利用して奈良や京の都へ建築用材を供給してきました。最も長く続けられた運搬手段としてはイカダによる流送です。

立木の伐採はスギでは 50 ～ 60 年生、ヒノキでは 80 年生くらいのものが標準とされ、土用の頃に行われました。斧とノコギリを用いて切り倒した原木は、４～５ m の長さに玉切りして集積され、秋まで山中で乾燥させた後、ソリに乗せてキンマ（木馬）道という桟道や雪を利用して引き出したり、谷川を堰き止めて発生させた鉄砲水を利用して、本流の川岸まで搬出しました。

戦後、材木の搬出方法は大きく変化し、伐採現場から張られた鉄製ワイヤーにロープウェーのように材木を吊り下げて道路際まで搬出（架線による搬出）し、トラックに積み込むなどの改良が行われました。また、昭和 40 年頃には斧とノコギリに代わってチェンソーが使われるなど機械化が進みました。しかし皮肉なことに、その頃から安価な外国産の材木が大量に輸入されるようになると、国産材の価格も暴落し、安曇川流域の林業は基幹産業の座を下りることになりました。

2. イカダの組立てと流送

大川と谷川の合流点付近には、ドバやオオドとよばれる作業場が設けられ、そこでイカダに組立てられました。イカダの基本構造は、材木を 2.5m ほどの幅に横並びにしてマンサクの木で作った縄（ネソ）で結束したものを１連といい、上流域では５～６ 連、中流域からは８～ 10 連を縦に連結しました。

イカダには筏乗り（筏師）が通常３人ほど乗り込んで、カジ棒（ネジキ）とコブシの木で作った棹を用いて巧みに操作しました。筏乗りは危険をともなう仕事であったため、報酬は一般の山仕事の３倍になったといわれ、昭和前期の山間地においてはあこがれの職業の一つでした。

筏乗りたちは難所を乗りきるために色々な工夫をしました。イカダの航行をスムーズにするために、川の浚渫や岩石の除去をして流路を確保したり、刻々と変化する川の状態を情報交換するのに便利なように、瀬・淵・岩に名前をつけました。裏面の地図に掲載したものだけでも約 200 ヶ所になりますが、かつてはこの数倍もあったといわれます。

3. イカダ流しの終幕

1200 年間の長きにわたり行われてきたイカダ流しも、昭和 10 年代後半頃から衰退期を迎えます。水力発電用ダムの建設、道路整備にともなうトラック輸送や鉄道敷設による貨物輸送の発達は、イカダ流しの著しい衰退を招きましたが、これに拍車をかけたのが日中戦争と太平洋戦争です。多くの若者が軍隊に応召されたために、筏の乗り手がいなくなるとともに流路が荒廃してイカダの航行に支障をきたしました。そして、戦後間もない昭和 23 年（1948）、安曇川水系におけるイカダ流しは廃絶しました。

安曇川水系のシコブチ神社（神社跡・講）

1．大原百井（ももい）　思子淵神社

この神社にはこの地域の開拓者である３人姉妹の長女が祀られているといわれている。その妹は大原大見の思子淵神社に祀られているらしい。境内は山の斜面にあり、山ノ神など４社が合祀され、それぞれの社が置かれている。

大原百井 思子淵神社

2．大原大見（おおみ）　思子淵神社

神社は大見川の源流付近に立地している。境内は参道と本殿の間を大見川が貫流する、特徴的な構造をしている。この地域の開拓者である３人姉妹の妹が祀られているといわれている。平成 24 年（2013 年）９月に台風 18 号により倒壊。無居住集落だったが元村民を中心に再建が進められている。

大原大見 思子淵神社

3．久多宮（くた）の町　志古渕神社

３本の河川が合流する場所に境内が立地している。祭神は安曇川の深い淵に棲む悪魔「ガワタロウ」を退治した、筏師の「犬部志古淵」であるといわれている。「犬部」は「忌部」のことであろう。この犬部志古淵の妻は、当神社の横を流れる久多川の 600mほど上流に位置する大川神社の女神であり、一年に一度だけ２人で会えるのだといわれている。

久多宮の町 志古渕神社

4．葛川坂下（かつらがわ　さかした）　思子渕大明神

安曇川左岸に突出した岩の頂部に３つの社がある。左から、思子渕大明神、愛宕神社、山の神。山の神はアシビ谷の左岸に立地していたものを平成に入ってから現在地に遷した。（集落のおばあさんのお話より）

葛川坂下 思子渕大明神

5．葛川坊村（かつらがわ　ぼうむら）　志古淵神社（地主神社境内）

地主神社創建以前は、太古より安曇川の清流等、水を司る司水神として志古淵の神が祀られ、安曇川上流で働く筏師等の守護神として信仰が厚かった（『葛川地主神社由来』より）。現在は地主神社の境内社として境内後方に祀られている。

葛川坊村 志古淵神社

6．葛川梅ノ木（かつらがわ　うめのき）　志子渕神社

祭神（御神体）| 大山祇神

寛文２年５月１日（西暦 1662 年６月 16 日）の地震で東山が崩落したとき社殿が流失した。同年８月１日に社殿再建の際、水難除の守護神・水速女命ノ神を合祀した。文化年中（1804-18）、梅ノ木村の誰かが四国八十八ヵ所巡拝し三嶋神社から大山祇神を勧請し氏神とした。

昭和 48 年 11 月９日に志子渕神社の上屋を新築した。そのとき、境内南端の榎大明神と水神の２社を合祀した。現在９月１日に行われている八朔祭は本来 10 月 17 日に行っていた志子渕神社の祭もかねている。また梅ノ木には材木の川流しを職業にしている者が多く年２回の祭を志子渕神社で行った。

葛川梅ノ木 志子渕神社

7．葛川町居（かつらがわ　まちい）　思子渕神社

町居の集落を北に抜けると寺と墓地に行き当たる。その奥の山の斜面に思子渕神社が鎮座している。現在、周囲は杉の植林。石段の上に社が築かれている。

葛川町居 思子渕神社

8．葛川細川（かつらがわ　ほそかわ）　シコブチ神社（八幡神社境内）

安曇川右岸の八幡谷を少し上がった山の斜面に鎮座する八幡神社の境内にある。山ノ神とともに境内社として２つの社が並んでいる。両社ともかつては別の場所にあったものをここに遷されたのだろう。

葛川細川 シコブチ神社

9．朽木小川（くつき　こがわ）　思子淵神社

祭神（御神体）| 思子淵神

境内は針畑川と染ヶ谷の合流点に立地している。筏流しをしていた当時は神社の隣に堰堤が造ってあり、そこで筏の乗り換えを行った。鳥居をくぐり階段を上ると覆屋がある。中には５つの社が置かれている。６月２０日の祭は田植えを終えた頃だったので「泥落とし」と呼んでいた。染ヶ谷の入口には山神の社がある。

朽木小川 思子淵神社

10．朽木平良（くつきへら）　思子淵神社

祭神（御神体）| 思子淵神

境内は針畑川の左岸にあり平良谷口のすぐ下手に立地している。平良谷口は山から伐り出した木を一旦集積し、筏にして川に流す作業を行う「ドバ」であり、平良の共有地として利用されてきた。覆屋の中には３つの社がおかれている。左から山ノ神、思子淵神社、十禅師社。

朽木平良 思子淵神社

11．朽木能家（くつきのうげ）　思子淵神社（旧境内地）

北川の左岸の山の斜面に旧境内と考えられる場所がある。現在は杉の植林地となっているが旧境内の周りの杉だけ他よりも太い。一番太い杉の根元に社の基壇跡と思われる石積みがある。

朽木能家 思子淵神社（跡）

12．朽木雲洞谷家一（くつきうどだにえべつ）　志故淵神社

境内は東向きに大きく突き出して北川を大きく屈曲させる尾根の下に立地している。そこは小字「木戸口」といい家一（えべつ）集落の入口に当たる。

朽木雲洞谷家一 志故淵神社

13．朽木雲洞谷犬丸（くつきうどだにいぬまる）　シコブチ神社

犬丸集落には上と下にそれぞれ小さな社があり、下の社がシコブチ神社である。西から東へ大きく突き出た山の尾根の下に社がおかれている。傍には杉の木があり注連縄がまかれている。

朽木雲洞谷犬丸 シコブチ神社

14．朽木岩瀬（くつきいわせ）　志子淵神社

もともとは現在の境内地よりも北側の小字畑福（現在は田んぼ）に鎮座していた。しかし寛文２年（1662）の大洪水によって神社が流されてしまい、現在の場所に遷したと伝えられている。境内には岩神社を合祀している。

朽木岩瀬 志子淵神社

15．朽木宮前坊（くつきみやまえぼう）　思子渕大明神（邇々杵神社境内社）

宮前坊の邇々杵神社の境内に思子渕大明神の社がある。邇々杵神社（ににぎじんじゃ）は平安時代の初期に滋賀郡坂本村の日吉十禅師を勧請したものである。

邇々杵神社

16．安曇川中野（あどがわ　なかの）　思子淵神社

社伝では、建武元年（1334 年）に勧請されたとある。安曇川流域に点在するシコブチ神社の中で最も下流に位置している。この神社が立地する中野から下流には、筏流しにとって特に危険な場所がない、ということと関係しているかもしれない。

安曇川中野 思子淵神社

17．葛川金山淵付近（かつらがわ　かなやまぶち）　シコブチ平（神社跡）

針畑大橋のまんなかの橋脚の位置にシコブチ神社があったとされる伝承がある。地名としてシコブチ平という名称が残っている。

（淵や岩などの名称 ●81）

シコブチ平

18．葛川細川（かつらがわ　ほそかわ）、朽木栃生（くつきとちゅう）　思子淵講（しこぶちこう）

朽木栃生の小字、右渕（にぎりぶち）では毎年１月上旬、思子淵講が行われる。現在ではお日待ち講など５つの講と同時に行われている。持ち回り講であり、当番の家に集まり５つの祠を並べて鏡餅をお供えして拝み、御下がりをいただく行事である。

思子淵神社 掛軸

「七思子淵（ななしこぶち）」

「七思子淵」以外のシコブチ神社（朽木村史に掲載されているもの）

本事業により新たに確認されたシコブチ神社